



新型コロナウイルスの 3つの顔を知ろう！ ～負のスパイラルを断ち切るために～

参考文献 引用
日本学校保健会
勸修文科省
協力日本赤十字社
企画制作ARROWS

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、学校を含めた日常生活にも、一部に制限があったり、新しい工夫が求められたりする状況が続いています。

今までとは違う生活形式に変化していく中で、感染症に対する不安や感染者などへの差別・偏見などが社会問題となっているのも事実です。

学校でも、感染予防を続けていますが、新型コロナウイルス感染症には誰もがかかる可能性があるということを考えなくてはなりません。

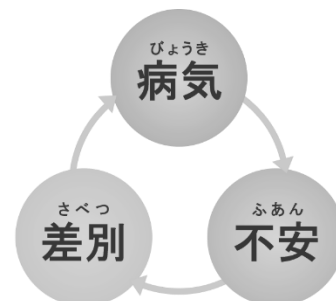
そこで、日本赤十字社監修の「新型コロナウイルスがもたらす3つの”感染症”」の考え方をもとに、新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見について考えてみましょう。



3つの“感染症”とは？

- ① “病気” そのものの感染症
- ② “不安” という気持ちの感染症
- ③ “差別・偏見” という意識の感染症

この3つの感染症が負のスパイラルとしてつながることで、さらなる感染拡大や、社会問題の深刻化へとつながっていきます。



感染症から差別や偏見が生まれる理由



人は目に見えないウイルスに対する不安やおそれを、目に見えるものにすり替えます。感染症にかかった人や、特定の地域・職業の人など、実際に目に見える感染症を連想させる人や場所などを避けたり遠ざけたりする気持ちや行動が「差別や偏見」につながっています。

目では見えないウイルスに対する
不安やおそれ



感染症にかかった人、その家族 地域や学校 を
“敵” とみなして 嫌悪の対象とする



嫌悪の対象を差別して遠ざけることで
つかの間の安心感を得る



新型コロナウイルスを含め、感染症は誰でもかかる可能性があります。

Check

たたかうべき相手は人ではなくウイルスです。
負のスパイラルを断ち切るために私たちにできること

ここ重要

① ウイルスの感染をひろげないために…

まずは 手洗い・咳エチケットの徹底、3密を避け、自分自身の感染症予防を徹底しておこなう。



② 不安にふりまわされないために…

情報源のはっきりしないうわさ話はしない・広げないこと



③ 差別や偏見をひろげないために…

言い出しにくい空気をつくらないこと

不安な気持ちが差別や偏見につながってしまいます。確実でない情報にはまどわされないようにしましょう。ワクチン接種も始まっていますが、打ちたい人、事情があって打ちたくても打てない人、打ちたくない人、いろいろな考えの人がいると思います。正しい情報を見極めて接種する・しないの選択をしてほしいと思います。その場合も個人の選択したことを尊重しましょう。批判するのではなく、これからも一人一人がしっかりと感染症対策を続けていくことが大事だと思います。

もし自分が感染したらどうしてほしいかなと置き換えて考えれば、差別や偏見を断ち切ることができると思います。

ご家庭でもご協力をお願いします。



新型コロナウイルスのニュースを見ながら、「東京から来ないでほしい」「あその人、コロナになったらしいわよ。怖いよね。」など何気なく発した言葉を子どもたちは聞いています。

この感染症に対する大人たちの反応は、子どもたちの受け止め方にも大きく影響します。ご家庭でも子どもたちが感染症への正しい理解のもとに適切に行動できるよう、ご協力よろしくお願いいたします。